

# 健康保険組合の令和3年度決算見込と今後の財政見通しについて

令和4年10月6日

健康保険組合連合会

## I. 令和3年度決算見込 (1,388組合)

- ① 令和3年度決算見込の経常収支は▲825億円の赤字となり、平成25年度以来8年ぶりに赤字へ。  
(5割を超える組合が赤字、赤字総額は▲2,750億円)。
- ② 保険料収入は前年度比+810億円、1.0%の微増。足元の標準報酬は、月額0.3%、賞与額2.9%と、前年度に比べ回復基調にあるものの、新型コロナ感染拡大前の令和元年度決算と比べて、月額▲0.2%、賞与額▲1.6%と、依然として低いまます。
- ③ 一方、保険給付費は前年度比+3,408億円、8.7%の増加、高齢者等拠出金は同+1,057億円、3.0%の増加と、保険料収入の伸びを大きく上回るペースで増加。

主な項目	令和3年度決算見込	令和2年度決算	伸び率
保険料収入	8兆2,652億円	8兆1,842億円	1.0%
保険給付費	4兆2,469億円	3兆9,061億円	8.7%
高齢者等拠出金	3兆6,513億円	3兆5,456億円	3.0%
経常収支差引額	▲825億円	2,958億円	-
実質保険料率	9.35%	8.90%	(+0.45p)

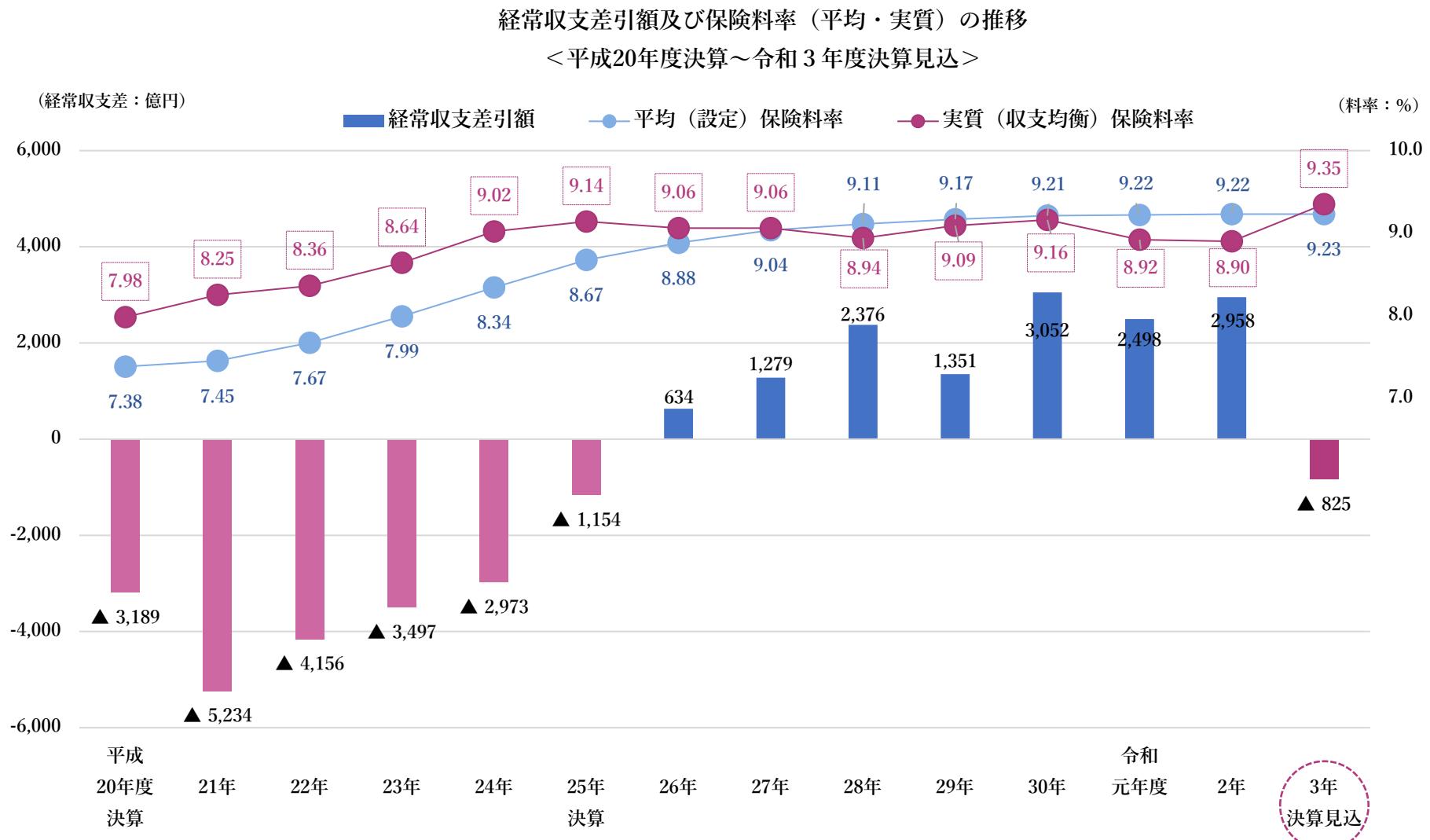
- ① 平均保険料率は0.01ポイント増の9.23%。収支均衡に必要な財源を賄うための実質保険料率は0.45ポイント増加し、9.35%。
- ② 保健事業費は、前年度比248億円(+7.2%)増の3,698億円。対令和元年度決算比では1.9%の伸び。
- ③ 経常収支は、2年度の新型コロナの影響を受けた▽繊維製品製造業、▽飲食用品小売業、▽運輸業、▽宿泊業、飲食サービス業、▽生活関連サービス業、娯楽業-等でさらに悪化。
- ④ 介護保険料率は、前年度比0.08ポイント増の1.77%。被保険者1人当たり介護納付金額は前年度比1,561円(前年度比+1.42%)増の11万1,456円。

## II. 今後の財政見通し（健保連推計）

- 令和4年度は、一時的な高齢者拠出金の精算戻り等の支出減により、収支が一時的に改善することも見込まれるが、7月以降、外来医療費が予想を大きく上回る勢いで伸びており、今後の動向を慎重に見極める必要がある。
- 令和5年度は、75歳に到達する団塊世代の増加により、拠出金は+2,700億円(対R4比+7.9%)と急激に増加。収支は▲1,700億円と再び赤字に転じ、5年度以降、毎年、増加する拠出金によりさらなる財政悪化が見込まれる。

主な項目	令和4年度(推計)	対R3決算比	令和5年度(推計)	対R4推計比
保険料収入	8兆5,500億円	3.4%	8兆6,100億円	0.7%
保険給付費	4兆3,700億円	3.0%	4兆5,500億円	3.9%
高齢者等拠出金	3兆4,000億円	▲6.8%	3兆6,700億円	7.9%
経常収支差引額	2,100億円	-	▲1,700億円	-
実質保険料率	9.15%	(▲0.20p)	9.55%	(+0.40p)

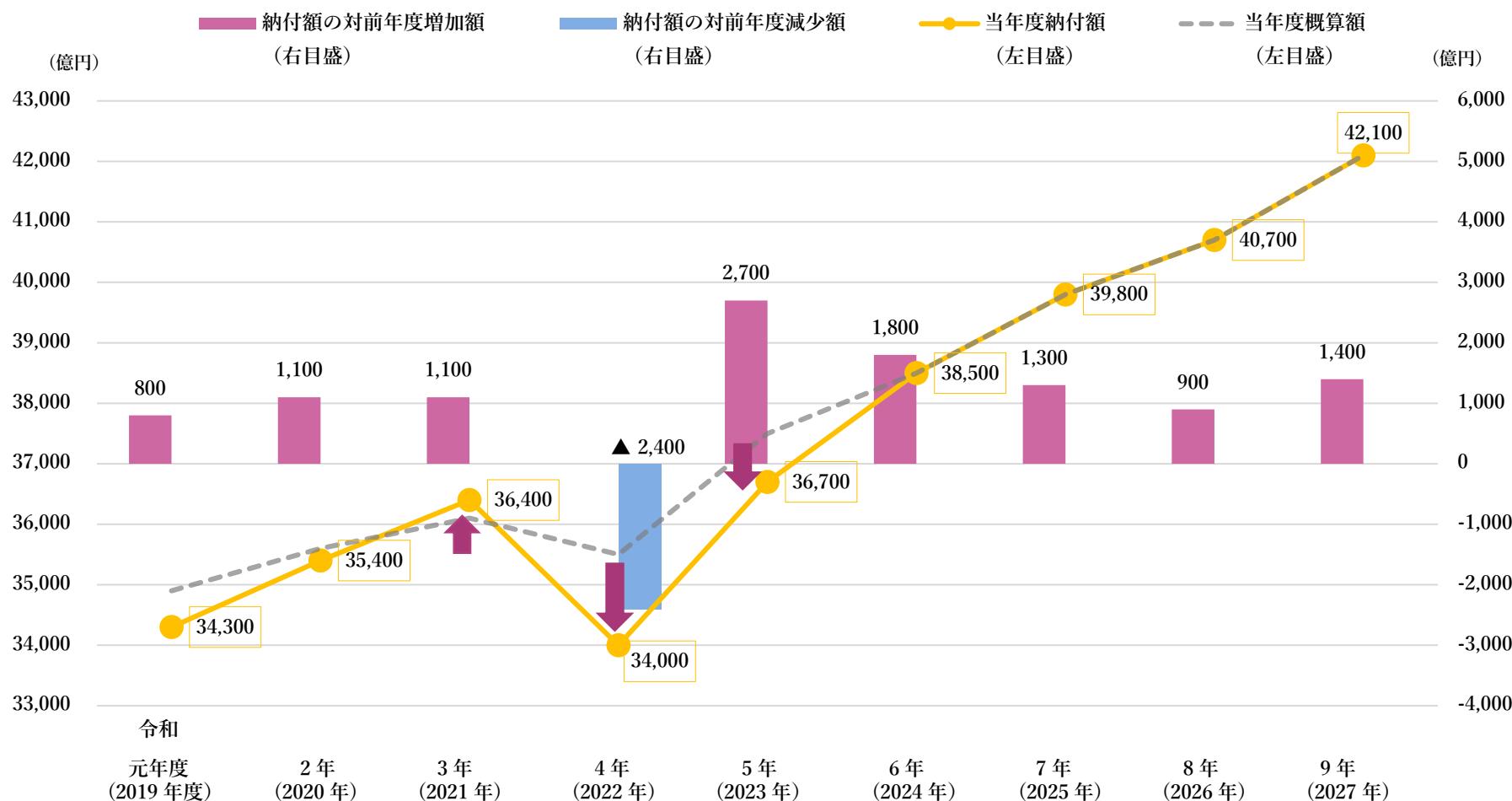
## 【参考-1】経常収支差引額の推移：平成 20 年度決算～令和 3 年度決算見込



注) 保険料率（平均・実質）は各組合の保険料率を単純平均したものである。また、料率には調整保険料率を含む。

## 【参考-2】高齢者拠出金の動向と見通し（～令和9年度）

高齢者拠出金の動向と見通し【粗い試算値（単位：億円）】



注1) 加入者数（2023年度概算要求ベース）と標準報酬総額（2023年度見込）を固定したごく粗い試算である。

注2) 当年度納付額=「当年度概算額」+「2年前の精算額」 (\*2年前の精算額=「2年前の確定額」-「2年前の概算額」)

注3) 納付額の対前年度増額（減少）額=概算額の対前年度増額（減少）額+（2年前の精算額-3年前の精算額）